

厚生労働科学研究費補助金

政策科学総合研究事業

高齢者等のセルフ・ネグレクト(自己放任)を防ぐ地域見守り組織のあり方
と見守り基準に関する研究
〈福井県勝山市北谷地区、長山地区〉

—平成20年度初回調査の概要—

平成20年度 分担研究報告書《NO 8》

協力研究者 金谷志子

平成21(2009)年3月

目 次

はしがき	1
研究組織	2
第1章 調査地区の概要	3
第2章 地域見守り組織作り推進への取り組み	5
第3章 調査結果	
1. アンケート調査	
1) 研究目的・方法	6
2) 結果	7
2. インタビュー調査	
1) 研究目的・方法	32
2) 結果	34
第4章 まとめ	44
(資料)	49
調査表等を入れる	

はしがき

人口構造および世帯構成の将来推計より、わが国の超高齢化は一層進み、近隣間での人々のつながりが希薄になり、お互いの生活に無関心な生活スタイルが定着しつつある。特に、経済基盤が脆弱な家族や、一人暮らし高齢者、高齢夫婦のみ世帯の高齢者が病気や怪我、災害などの危機的な状態に陥ったときに誰にも助けを求めることができず心中・介護殺人など、悲惨な状況で孤独な死を迎えていることが、新聞テレビで報道され社会問題化している。このような孤独死の背景には、高齢者のセルフ・ネグレクト(自己放任、以降省略)の可能性が高く、セルフ・ネグレクト状態の中・高齢者等の孤独死は、今後増え続けることが予測される。

高齢者のセルフ・ネグレクトの問題については、正常な判断能力を持つ者の自由意志に基づく行為の結果は、個人の選択の問題であり、法的介入や医療保健福祉の専門家の介入対象にならないという考え方がある。その一方で、セルフ・ネグレクトは個人がコントロールできず、周囲の状況によって起こる結果であり、安全や健康を脅かしている場合、専門家が介入を行うべき問題であるという考え方もある。人権意識の低いわが国の状況をふまえると、人権を守る観点からもセルフ・ネグレクトは見逃すことができない問題である。また、セルフ・ネグレクトに関する最新の文献レビューでは、高齢者の認知機能障害と抑うつがセルフ・ネグレクトの二大要因であり、高齢者のセルフ・ネグレクト状態は死亡の危険性が著しく高いことを示唆し、セルフ・ネグレクトの見守りによる早期発見・早期介入支援が必要な状態であることを明確に指摘している。しかし、セルフ・ネグレクトはわが国の虐待防止法では未だ定義されていない。

平成18年「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」施行後、厚生労働省は全国市町村に地域見守り組織構築の重要性を指摘した。平成19年3月全国市町村調査では民生委員・住民等からなる早期発見・見守り組織構築への取り組みは16.8%しかない。孤独死の主原因となるセルフ・ネグレクト状態の中・高齢者の早期発見、見守り組織に関する実証研究は、国内及び海外の文献資料などでも希少な取り組みである。

本研究の目的は、セルフ・ネグレクト状態等の高齢者の早期把握のため求められている都市や僻地の地域見守り組織について、見守り専任職員の雇用の有無による活動の違いと課題を明らかにし、それぞれの地域に適したセルフ・ネグレクトの早期発見・見守り組織や地域包括支援センター等との連携のあり方を考えることにある。

初年の平成20年度は、セルフ・ネグレクト状態など支援困難な中・高齢者等の早期発見・対処に目を向け、都市部や僻地における地域見守り組織への実態把握及び関係者への面接を通して地域特性の有無を検証。併せて見守り専門職の配置の有無による見守り方の違い等を分析している。

本報告書は、市町村および地域包括支援センターが担うセルフ・ネグレクト状態等の高齢者の早期発見・早期把握のための基礎資料として役立つものとする。

平成 21年 3月 吉日

主担研究者・分担研究者

研究組織

<本報告書作成者>

協力研究者：金谷志子（福井県立大学看護福祉学部看護学科 講師）

研究協力者：櫻井陽子（福井県勝山市地域包括支援センター 主任 保健師）

研究組織構成メンバー

研究代表者：津村智恵子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 学部長）

分担研究者：河野あゆみ（大阪市立大学医学部看護学研究科 教授）

和泉京子（大阪府立大学看護学部看護学研究科 准教授）

臼井キミカ（大阪市立大学医学部看護学研究科 教授）

大井美紀（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 准教授）

榊田聖子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助教）

中村陽子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 教授）

佐瀬美恵子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 准教授）

上村聡子（甲南女子大学看護リハビリテーション学部 助手）

協力研究者：金谷志子（福井県立大学看護福祉学部看護学科 講師）

川井太加子（桃山学院大学社会福祉学部社会福祉学科 准教授）

第1章 調査地区の概要

1. 調査地区の状況

市町村名	福井県勝山市	
市町村の概要	勝山市は、福井県の東北部に位置し、市の中心は福井市の東方約 28 キロメートルの地点にある。市の周辺は 1,000 メートル級の山々に囲まれ、中心部は県下最大の河川である九頭竜川の中流域に位置している。市街地は九頭竜川の流れて沿って形成された河岸段丘に位置しており、明治以来の地場産業である繊維産業を中心とした商工業や古くから盛んな農林業を基幹産業とする。	
人口(H20.3月現在)	人口 26,987 人、世帯数 8,364 世帯	
65 歳以上人口(高齢化率) (H20.3月現在)	高齢化率 28.58%	
調査市町村(政令市は区)の 包括支援センター数	1カ所	
調査地区の 包括支援センターの専門職	勝山市地域包括支援センター 1箇所 保健師 2名、社会福祉士 1名、主任ケアマネージャー 1名、 介護支援専門員 4名	
地区名	北谷地区	長山地区
人口(人)	119人	763人
高齢者人口(人)	74人	237人
高齢化率(%)	62.3%	31.6%
世帯数(世帯)	61世帯	266世帯
1世帯あたりの人員	1.95人/世帯	3.21人/世帯
地区の概況	勝山市の北東に位置し、市街地より約7kmの山間部にあり、県内でも降雪量の多い地域である。地区は南北約4km、東西約4kmで、7集落(北六呂師、木根橋、河合、小原、杉山、中尾、谷)からなる。	勝山市の中央に位置し、勝山市役所より2kmにある。南北約900m、東西約600mで、地区の中央を県道261号線(勝山街道)、国道131号線が走る。地区内には福井社会保険病院や長山公園がある。古くからの住宅が中心にあり、周辺に新興住宅がある。
見守り組織の名称・数(人数)	なし	なし
見守り活動の状況	見守り組織はないが、住民同士が日常の中で互いに見守っている状況である。高齢化率が高く、高齢者同士、お互いに見守っている状況である。	民生委員、地区ボランティアらによる地区の生きがいサロン活動が活発である。サロン時に、参加者の状況を把握したり、サロン勸奨を通して地区の高齢者の状況を把握している状況である。

2. 交通機関(調査地区の最寄り駅、近隣バス路線など、見守るときの移手段など)

地区名	北谷地区	長山地区
最寄り駅	えちぜん鉄道 勝山駅	えちぜん鉄道 勝山駅
近隣バス路線		京福バス 勝山・大野線 福井社会保険病院停留所
見守るときの移手段	自家用車、徒歩	自家用車、徒歩

3. 高齢者の組織

高齢者を中心とした連携を示す見守り活動の状況を図に示した。

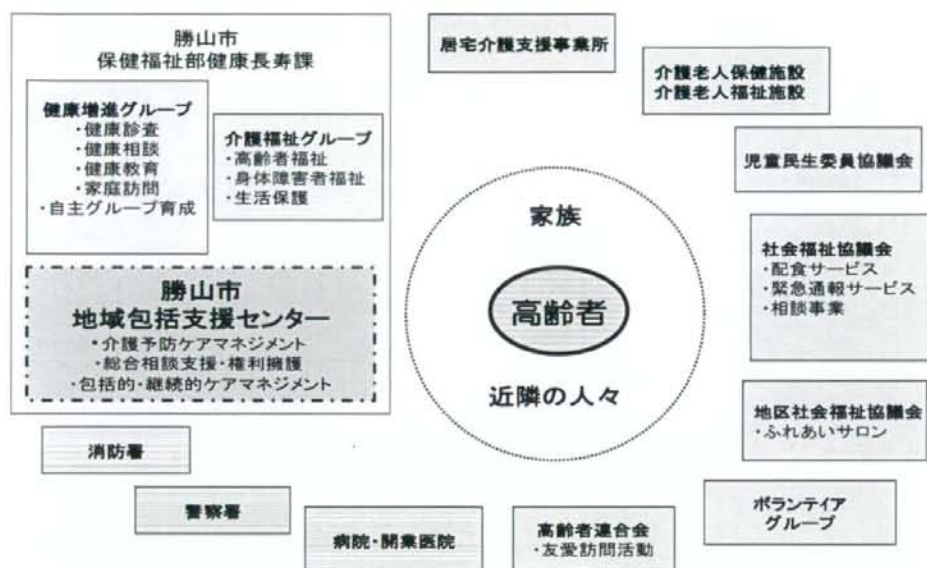


図 高齢者を中心とした連携を示す見守り活動の状況

4. 地域包括支援センターの活動概況(1～2年分-平成18年度から19年度の概況)

1) 困難事例取扱い件数の推移

	保健福祉サービス関係	権利擁護	高齢者虐待
平成18年度	165件	4件	21件
平成19年度	110件	11件	13件

2) 困難事例支援検討組織と活動

高齢者虐待防止ネットワーク会議を平成19年度に設置し、年2回会議を開催。

1. 困難事例への対応
2. 法律相談の活用
3. 日常生活自立支援事業の活用
4. 障害者生活支援センター、健康福祉センターとの連携

第2章 地域見守り組織づくり推進への取り組み

1. 現在に至るまでの取り組み

現在に至るまでの取り組みを地区別に見ると、北谷地区は見守り組織はないが、住民同士が日常の中で互いに見守っている状況である。高齢化率が高く、高齢者同士、お互いに見守っている状況である。地区社会福祉協議会が中心となって高齢者のふれあいサロンを北谷公民館で実施している。

長山地区は、民生委員、地区ボランティアらによる地区の生きがいサロン活動が活発である。サロン時に、参加者の状況を把握したり、サロン勸奨を通して地区の高齢者の状況を把握している状況である。地区ボランティアは、地区の雪下ろしから始まった活動で、男性のボランティアが比較的多いのが特徴である。

2. 本年度の研修・啓発活動

1) これまでに実施した研修・啓発活動(実施年月、対象、人数)

- ①実施回数；2回（北谷地区；平成20年8月日、長山地区平成20年8月日）
- ②対象；見守り組織メンバー（予定者）…区長、民生委員、地区社会福祉協議会
- ③スタッフ；地域包括支援センター 保健師、市社会福祉協議会
- ④内容；地区の見守り活動の現状、地区の見守り活動実施に向けた展開の方向性の検討
- ⑤参加状況；北谷地区 18人、長山地区 30人
- ⑥評価；無

2) 見守り組織メンバー、一般住民等を対象とした活動(イベント、ポスター、研修会など)

- ① 実施回数；2回
(北谷地区；平成21年2月26日、長山地区；平成21年2月17日)
- ②対象；見守り組織メンバー（予定者）
- ③スタッフ；地域包括支援センター 保健師
- ④内容；
 - ・ 高齢者見守り活動とは
 - ・ 高齢者見守り活動実践事例の紹介と効果について
- ⑤参加状況 北谷地区；25名、長山地区；35名

第3章 調査結果

1. アンケート調査結果

1) 研究目的

本章では、高齢者のセルフ・ネグレクトおよび孤立死を防ぐための地域見守り組織のありかたについて検討を行うために、地域住民へのアンケート調査を行った。地域における見守り組織のありかたを検討する際には、それぞれの地域の住民組織体制や地域性による違いをふまえることが必要である。本研究では、地域見守り組織としての活動は実施されていないが、日常的に住民が近隣同士で見守りをしている地域として勝山市北谷地区と当該プロジェクトを通じて地域見守り組織を立ち上げ、活動を展開しようとしている地域として勝山市長山地区を選択した。

両地域間で地区住民がとらえている地区組織の活動状況、見守りの状況などの差異を比較検討することを目的としている。

2) 研究方法

(1) 対象者

勝山市2地区の高齢者の見守り組織のメンバー予定者 60人

(2) 方法

郵送法による自記式質問紙調査

(3) 期間

平成20年8月

(4) 調査内容

基本属性（性、年齢、地域での役職・職種）、地区での活動内容、見守り内容、孤立死防止に関する項目

(5) 分析方法

基本属性別等に活動内容、見守り内容、孤立死防止に関する項目を比較、検討する。

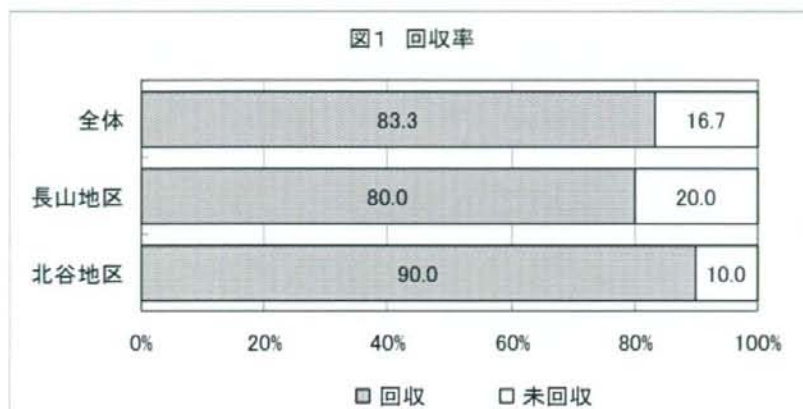
3) 倫理的配慮

本研究は勝山市の個人情報保護条例を遵守して行った。研究対象者へ研究の主旨、匿名性、研究への参加は対象者の自由意志であり、不参加の場合に不利益を被るものではないこと、途中でいつでも参加中止が出来ること、面接内容に関するプライバシー保護を厳守すること、得られたデータは本研究目的以外に使用しないことを記載した調査依頼文を配布し説明し研究協力を依頼し、同意を得て行った。

4) 結果

(1)回収数(回収率)

調査票の配布数 60 票（北谷地区 20 票、長山地区 40 票）のうち、回収数は 50 票であり、その全てを有効回答とした（有効回答率 83.3%）。分析の対象は北谷地区 18 票（有効回答率 90.0%）、長山地区 32 票（有効回答率 80.0%）であった。（図 1）。



(2)基本属性

①性別

対象者の性別は、男性 24 人 (48.0%)、女性 26 人 (52.0%) であり、ほぼ同数であった（表 1、図 2）。

表1 性別に見た割合

	合計 n=50		北谷 n=18		長山 n=32	
	人数	%	人数	%	人数	%
男性	24	48.0	10	55.6	14	43.8
女性	26	52.0	8	44.4	18	56.3

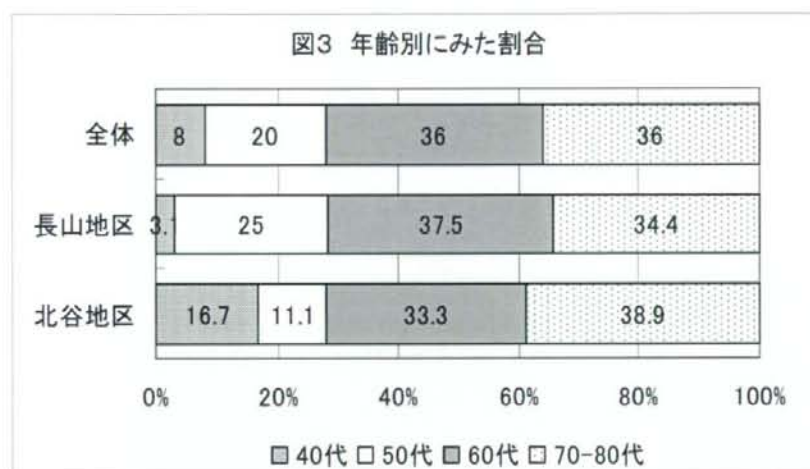


②年齢

年齢は、対象者全体では、60歳代と70-80代が18人（36.0%）と最も多く、次いで50歳代が10人（20.0%）、40歳代が4人（8.0%）であり、高齢者が多かった（表2、図3）。

表2 年齢別に見た割合

	合計 n=50		北谷 n=18		長山 n=32	
	人数	%	人数	%	人数	%
40代	4	8.0	3	16.7	1	3.1
50代	10	20.0	2	11.1	8	25.0
60代	18	36.0	6	33.3	12	37.5
70-80代	18	36.0	7	38.9	11	34.4

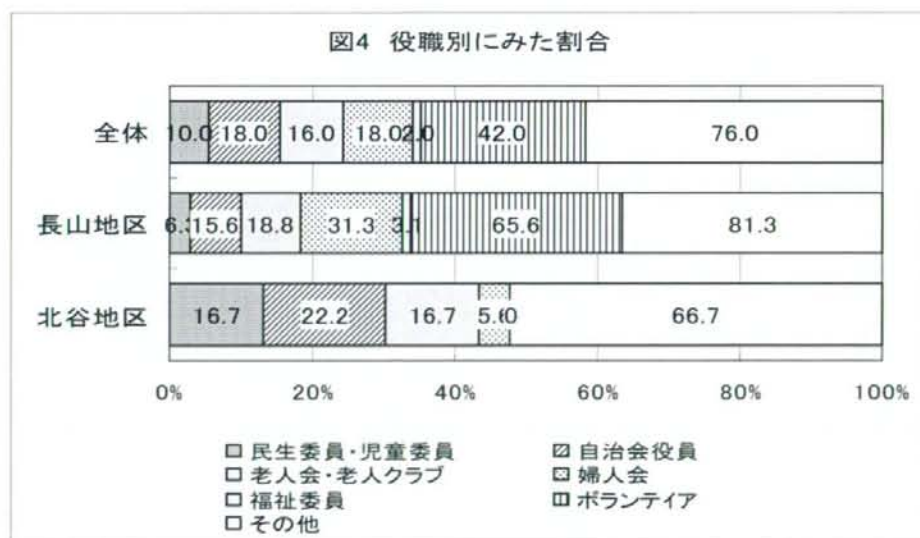


③地域での役職

地域での役職別にみると(表3、図4)、民生委員・児童委員が10.0%、自治会役員が18.0%、老人会・老人クラブが16.0%であった。その他は、北谷地区では、地区社協(会長、副会長)、農家組合長会会長、青年団、保健推進員、日赤奉仕団員であった。長山地区では、高齢者ふれ合いサロンボランティア、壮年会、保健推進員であった。また2つ以上の役職を兼任しているものは23人であった。

表3 地域での役職(複数回答)

	合計 n=50		北谷 n=18		長山 n=32	
	人数	%	人数	%	人数	%
民生委員・児童委員	5	10.0	3	16.7	2	6.3
自治会役員	9	18.0	4	22.2	5	15.6
老人会・老人クラブ	8	16.0	3	16.7	6	18.8
婦人会	11	18.0	1	5.6	10	31.3
福祉委員	1	2.0	0	0.0	1	3.1
ボランティア	21	42.0	0	0.0	21	65.6
その他	38	76.0	12	66.7	26	81.3
合計	94	188.0	23	127.8	32	221.9



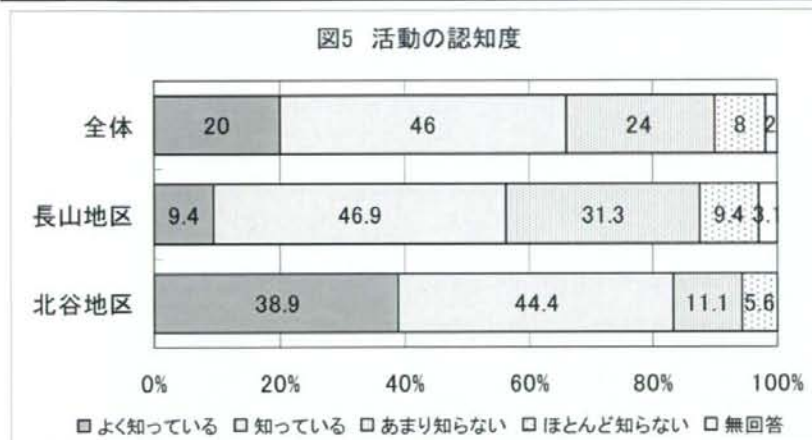
(3)今の活動の認知度と活動内容

①今の活動の認知の程度

今の活動の認知の程度をみると、「よく知っている」「知っている」と回答した者は、全体では33人(66.0%)であり、半数以上が活動を認知しているとしていた。北谷地区では全体の15人(83.3%)であったが、長山地区では全体の18人(58.1%)であった。(表4、図5)

表4 今の役職で行っている活動

今の活動の認知の程度	合計 n=50		北谷 n=18		長山 n=32	
	人数	%	人数	%	人数	%
よく知っている	10	20.0	7	38.9	3	9.4
知っている	23	46.0	8	44.4	15	46.9
あまり知らない	12	24.0	2	11.1	10	31.3
ほとんど知らない	4	8.0	1	5.6	3	9.4
無回答	1	2.0	0	0.0	1	3.1



「活動への地区住民の思い」では、全体では「感謝している」が全体の20人(40.0%)が最も多かった。(表5)

表5 今の役職で行っている活動

活動への地区住民の思い	合計 n=50		北谷 n=18		長山 n=32	
	人数	%	人数	%	人数	%
感謝している	20	40.0	9	50	11	34.4
世話好き	5	10.0	2	11.1	3	9.4
余計なことをしている	2	4.0	1	5.6	1	3.1
無関心	6	12.0	1	5.6	5	15.6
その他	4	8.0	3	16.6	1	3.1
無回答	13	26.0	2	11.1	11	34.4
合計	50	100.0	18	100.0	32	100.0

②現在行っている活動として実施した方がよいと考える活動

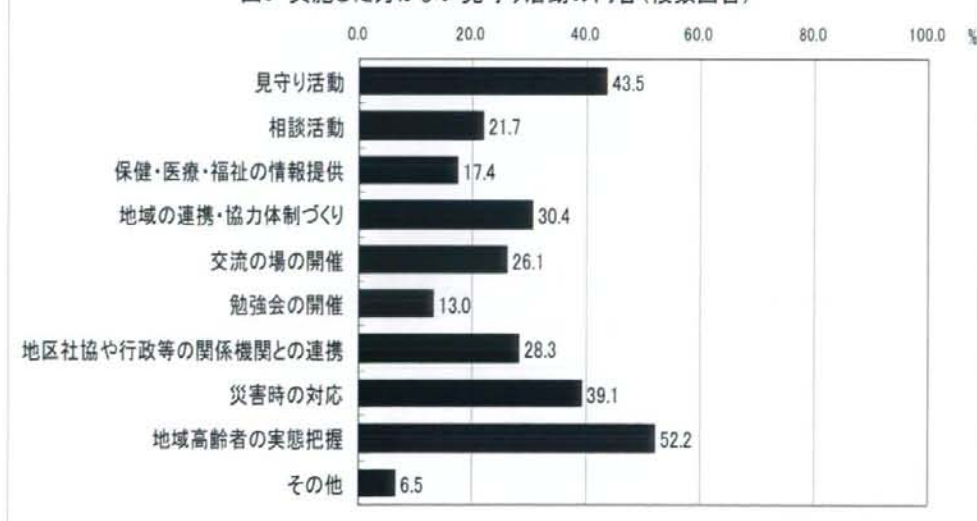
「現在行っている活動として実施した方がよいと考える活動」では、28人が実施した方がよいと回答した。

その内容は、「地域高齢者実態調査」が24人（52.2%）が最も多く、次いで「見守り活動」20人（43.5%）、「災害時の対応」18人（39.1%）、「地域の連携・協力づくり」14人（30.4%）「地区社会福祉協議会や行政等の関係機関との連携」13人（28.3%）であった。（表6、図6）

表6 現在行っている活動として実施した方がよいと考える活動（複数回答）

	全体 n=28		北谷 n=12		長山 n=16	
	人数	%	人数	%	人数	%
見守り活動	20	43.5	11	64.7	9	58.6
相談活動	10	21.7	6	35.3	4	24.1
保健・医療・福祉の情報提供	8	17.4	5	29.4	3	17.2
地域の連携・協力体制づくり	14	30.4	8	47.1	6	55.2
交流の場の開催	12	26.1	5	29.4	7	55.2
勉強会の開催	6	13.0	0	0.0	6	13.8
地区社協や行政等の関係機関との連携	13	28.3	8	47.1	5	27.6
災害時の対応	18	39.1	10	58.8	8	58.6
地域高齢者の実態把握	24	52.2	11	64.7	13	44.8
その他	3	6.5	0	0.0	3	10.3
合計	128	278.2	64	376.5	64	365.4

図6 実施した方がよい見守り活動の内容（複数回答）

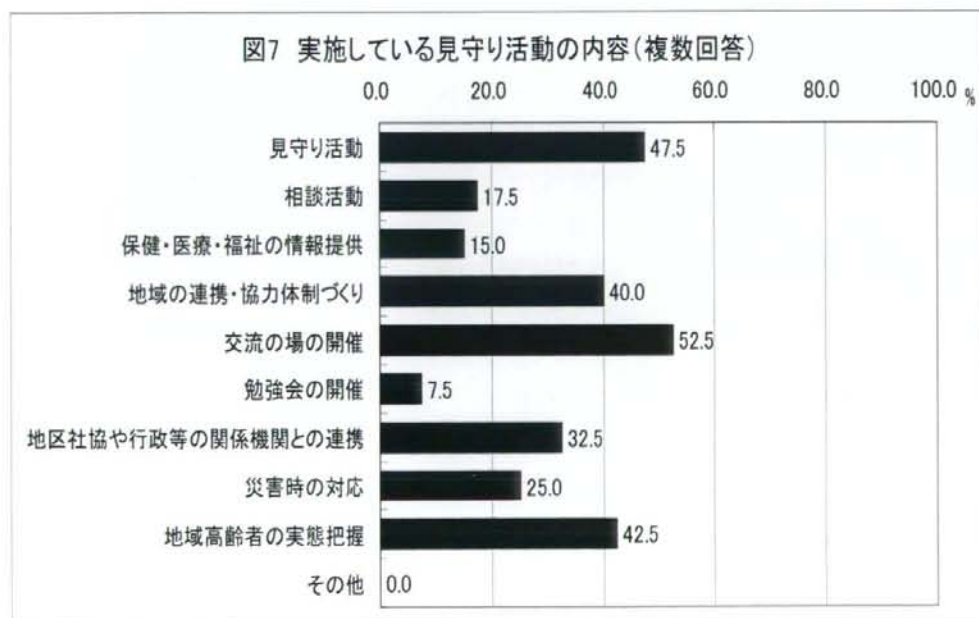


③現在行っている活動内容

「現在行っている活動で実施している活動」について40人が実施した方がよいと回答した。その内容は、「交流の場の開催」21人（52.5%）が最も多く、次いで「見守り活動」19人（47.5%）「地域高齢者実態調査」17人（42.5%）、「地域の連携・協力づくり」16人（40.0%）であった（表7、図7）。

表7 現在行っている活動内容（複数回答）

	全体 n=40		北谷 n=16		長山 n=24	
	人数	%	人数	%	人数	%
見守り活動	19	47.5	9	56.3	10	41.7
相談活動	7	17.5	4	25.0	3	12.5
保健・医療・福祉の情報提供	6	15.0	3	18.8	3	12.5
地域の連携・協力体制づくり	16	40.0	6	37.5	10	41.7
交流の場の開催	21	52.5	7	43.8	14	58.3
勉強会の開催	3	7.5	0	0.0	3	12.5
地区社協や行政等の関係機関との連携	13	32.5	6	37.5	7	29.2
災害時の対応	10	25.0	5	31.3	5	20.8
地域高齢者の実態把握	17	42.5	8	50.0	9	37.5
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	112	280.0	48	300.2	64	266.7



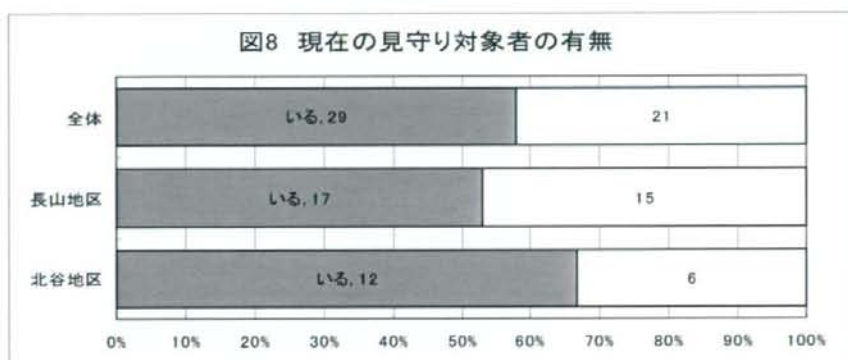
(4) 見守り活動

①見守り活動の対象者の有無

現在見守り対象者の有無をみると（表8、図8）、「いる」が全体では58.0%と半数以上が実施していた。北谷地区では12人（66.7%）、長山地区では17人（53.1%）であった。

表8 見守り活動の対象者の有無

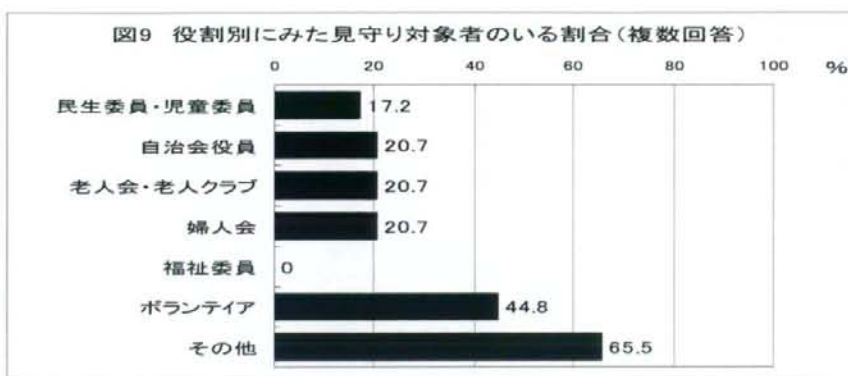
	全体		北谷		長山	
	人数	%	人数	%	人数	%
いる	29	58.0	12	66.7	17	53.1
いない	21	42.0	6	33.3	15	46.9
合計	50	100.0	18	100.0	32	100.0



現在の見守り対象者が「いる」と答えた者で、役職別みると（表9、図10）、ボランティア13人（44.8%）が最も多く、次いで民生委員・児童福祉委員、自治会役員、老人会・老人クラブ6人（20.7%）が多かった。

表9 役職別にみた見守り対象者のいる割合（複数回答）

	全体		北谷		長山	
	人数	%	人数	%	人数	%
民生委員・児童委員	5	17.2	3	25.0	2	11.8
自治会役員	6	20.7	3	25.0	3	17.6
老人会・老人クラブ	6	20.7	3	25.0	3	17.6
婦人会	6	20.7	1	8.3	5	29.4
福祉委員	0	0.0	0	0.0	0	0.0
ボランティア	13	44.8	0	0.0	13	76.5
その他	19	65.5	6	50.0	13	76.5
合計	29	189.6	12	133.3	17	229.4



②見守り活動の対象者

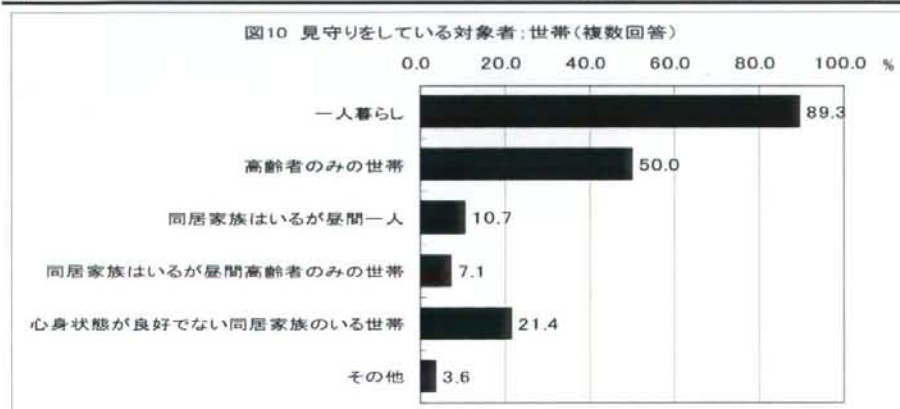
・ 世帯

見守り活動の対象者を世帯別にみると(表10、図9)、「一人暮らし」が25人(89.3%)、「高齢者のみの世帯」が14人(50.0%)、独居・高齢者のみ世帯が主な見守り対象である。北谷地区では見守り活動を実施していると回答した全員が回答した。北谷地区の「世帯」は「一人暮らし」11人(91.7%)が最も多く、次いで「高齢者のみの世帯」7人(58.3%)の順となった。

長山地区では見守り活動を実施していると17人中16人が回答した。長山地区では、「世帯」でみると「一人暮らし」14人(87.5%)が最も多く、次いで「高齢者のみの世帯」7人(43.8%)、「心身状態が良好でない同居家族のいる世帯」5人(31.3%)の順となった。

表10 見守り活動の対象者の世帯(複数回答)

	全体 n=28		北谷 n=12		長山 n=16	
	人数	%	人数	%	人数	%
一人暮らし	25	89.3	11	91.7	14	87.5
高齢者のみの世帯	14	50.0	7	58.3	7	43.8
同居家族はいるが昼間一人	3	10.7	2	16.7	1	6.3
同居家族はいるが昼間高齢者のみの世帯	2	7.1	1	8.3	1	6.3
心身状態が良好でない同居家族のいる世帯	6	21.4	1	8.3	5	31.3
その他	1	3.6	0	0.0	1	6.3
合計	51	182.1	22	183.3	29	181.3



・ 状態

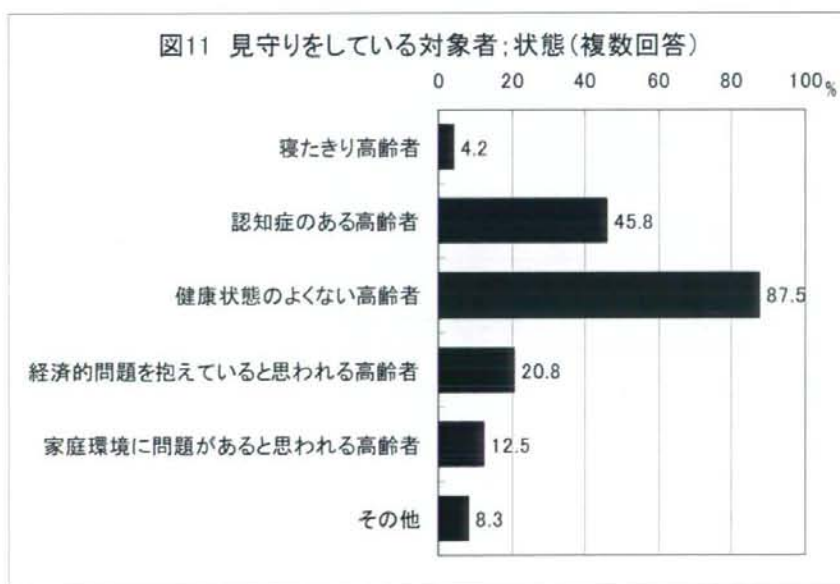
見守り活動の対象者を状態別にみると（表 11、図 10）、健康状態が主であるが、経済面・家庭環境の問題も捉えられている。

北谷地区では見守り活動を実施していると回答した 12 人中 10 人が回答した。北谷地区では、「状態」でみると「健康状態のよくない高齢者」8 人（92.9%）が最も多く、次いで「認知症のある高齢者」5 人（50.0%）の順となった。

長山地区では見守り活動を実施していると回答した 17 人中 1 人が回答した。長山地区では、「状態」でみると「健康状態のよくない高齢者」13 人（80.0%）が最も多く、次いで「認知症のある高齢者」6 人（42.9%）の順となった。

表 11 見守り活動の対象者の状態（複数回答）

	全体 n=24		北谷 n=10		長山 n=14	
	人数	%	人数	%	人数	%
寝たきり高齢者	1	4.2	0	0.0	1	7.1
認知症のある高齢者	11	45.8	5	50.0	6	42.9
健康状態のよくない高齢者	21	87.5	8	80.0	13	92.9
経済的問題を抱えていると思われる高齢者	5	20.8	2	20.0	3	21.4
家庭環境に問題があると思われる高齢者	3	12.5	0	0.0	3	21.4
その他	2	8.3	2	20.0	0	0.0
合計	43	179.2	17	170.0	26	185.7

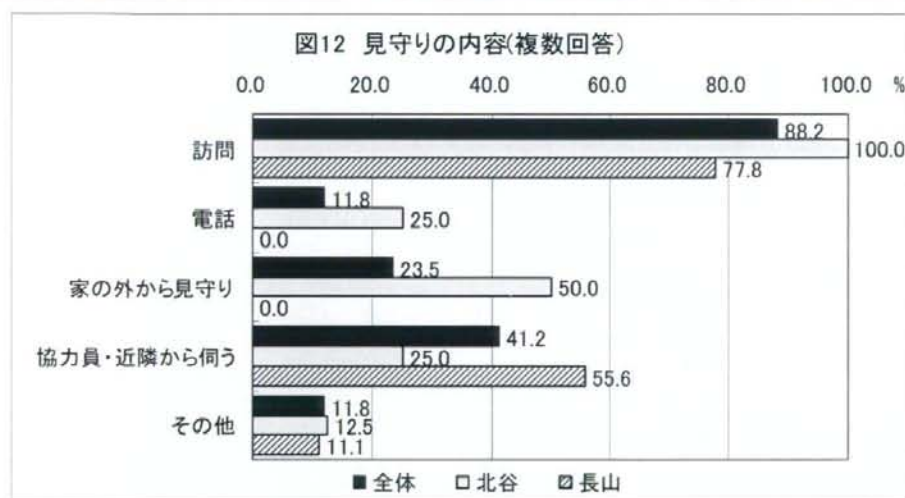


・ 内容

見守りの内容別では（表 12、図 11）、自らの訪問のみならず、近隣等と協同で行っている。

表 12 見守りの内容（複数回答）

	全体 n=17		北谷 n=8		長山 n=9	
	人数	%	人数	%	人数	%
訪問	15	88.2%	7	87.5	8	88.9
電話	1	5.9%	1	12.5	0	0.0
家の外から見守り	3	17.6%	3	37.5	0	0.0
協力員・近隣から伺う	6	35.3%	1	12.5	5	55.6
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	25	147.1%	12	150.0	13	144.4



③見守りしている人数と頻度

・ 人数

見守りしている人数は、5人以下が最も多かった（表 13）。

表 13 見守り内容別にみた見守りしている人数（複数回答）

見守り人数	訪問人数		電話人数		家の外からの人数		近所人数	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
5人以下	10	20.0	1	2.0	3	6.0	5	10.0
6～10人	1	2.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0
11～15人	3	6.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
16～20人	1	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	35	70.0	49	98.0	47	94.0	44	88.0
合計	50	100.0	50	100	50	100	50	100

・ 頻度

見守りしている頻度は、訪問では8～10日以上の頻度で行っている者が多かった（表14）。

表14 見守り内容別にみた見守り頻度（1回/日、複数回答）

見守り頻度 (1回/日)	訪問人数		電話人数		家の外からの人数		近所人数	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
毎日	1	2.0	0	0.0	1	2.0	0	0.0
2～3日	3	6.0	0	0.0	1	2.0	1	2.0
4～7日	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	4.0
8～10日	4	4.0	1	2.0	1	2.0	0	0.0
11～14日	3	6.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0
15～30日	3	6.0	0	0.0	0	0.0	1	2.0
無回答	35	70.0	49	98.0	47	94.0	44	88.0
	50	100.0	50	100	50	100	50	100

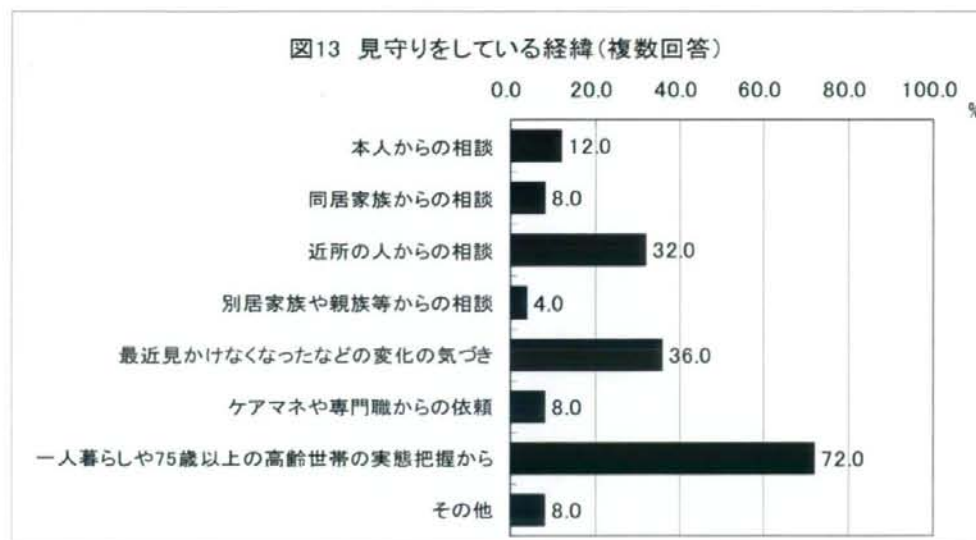
④見守りに行った経緯

見守りに行った経緯別にみると（表15、図13）、「一人暮らしや75歳以上の高齢世帯の実態把握から」18人（72.0%）が最も多く、次いで「最近見かけなくなったなどの変化の気づき」9人（36.0%）、「近所の人からの相談」8人（32.0%）の順に多かった。

北谷地区は、「一人暮らしや75歳以上の高齢世帯の実態把握から」8人（61.5%）が最も多く、次いで「最近見かけなくなったなどの変化の気づき」7人（53.8%）「近所の人からの相談」6人（46.2%）の順に多かった。長山地区は「一人暮らしや75歳以上の高齢世帯の実態把握から」10人（%）が大部分であった。

表15 見守りに行った経緯（複数回答）

	全体 n=28		北谷 n=12		長山 n=16	
	人数	%	人数	%	人数	%
本人からの相談	3	12.0	0	0	3	23.1
同居家族からの相談	2	8.0	0	0	2	15.4
近所の人からの相談	8	32.0	2	16.7	6	46.2
別居家族や親族等からの相談	1	4.0	0	0	1	7.7
最近見かけなくなったなどの変化の気づき	9	36.0	2	16.7	7	53.8
ケアマネや専門職からの依頼	2	8.0	0	0	2	15.4
一人暮らしや75歳以上の高齢世帯の実態把握から	18	72.0	10	83.3	8	61.5
その他	2	8.0	2	16.7	0	0
合計	45	180.0	16	133.4	29	223.1



⑤見守りの際の留意事項

見守りの際に注意していることを項目別にみると(表17、図13)、見守り活動の際に注意している変化は、「健康状態」23人(95.3%)が最も多く、次いで「外出の機会」7人(29.2%)、「認知症の度合い」「病院のかかり具合」6人(25.0%)の順に多かった。

北谷地区では、「健康状態」11人(91.7%)が最も多く、次いで「認知症の度合い」4人(33.3%)「病院のかかり具合」3人(25.0%)の順に多かった。長山地区では、「健康状態」12人(100.0%)が最も多く、次いで「外出の機会」5人(41.7%)「火の始末」4人(33.3%)の順に多かった。

表16 見守りの際の留意事項(複数回答)

	全体 n=28		北谷 n=12		長山 n=16	
	人数	%	人数	%	人数	%
健康状態	23	95.8	11	91.7	12	100.0
認知症の度合い	6	25.0	4	33.3	2	16.7
病院のかかり具合	6	25.0	3	25.0	3	25.0
食事の回数・量	3	12.5	1	8.3	2	16.7
身体の清潔	3	12.5	0	0.0	3	25.0
家屋内の清潔	3	12.5	1	8.3	2	16.7
火の始末	6	25.0	2	16.7	4	33.3
外出の機会	7	29.2	2	16.7	5	41.7
訪問者の状況	1	4.2	0	0.0	1	8.3
経済事情	2	8.3	0	0.0	2	16.7
助けを求める能力	5	20.8	2	16.7	3	25.0
合計	65	270.8	26	216.7	39	325.1